



七松小学校 学校だより

令和7年度

2月号

尼崎市立七松小学校

校長 高島 洋

☆ ホームページアドレス <https://www.amanet.ed.jp/school/E31/>



よくできたね



1月下旬から2月上旬は一年で一番寒い時期と言われます。「大寒」です。天気予報を見ていると、10年に一度という言葉をよく耳にします。10年に一度の寒波も10年に一度の暖かさも聞きます。極端すぎる気候は体調管理が難しいので、普通の気候になってほしいと願うばかりです。温暖化の影響で、今後これが普通になるのかもしれません。今年度も2月と3月の2か月。子どもたちには元気に学校生活を送り、学年の締めくくりをしてほしいと思います。

さて、12月に実施した「あまっ子ステップアップ調査」ですが、結果が返ってきます。皆様へは、校内で調整し2月から3月初旬をめどに結果をお渡しします。ご家庭でお子さんと一緒に結果をご覧いただき、是非、12月に普段とは違うテストに取り組んだ努力をまずは「ほめて」いただきたいと思います。

ほめることは、子どもの成長につながります。ただし、どんなほめ方でもいいというわけではないようです。スタンフォード大学のキャロル・ドウエック教授は思春期初期の子ども数百人を対象に褒める実験をしています。子どもたちに非言語式知能検査のかなり難しい問題をやらせます。ほぼ成績に差はなかったそうです。その後子どもを2グループに分けます。一つのグループには「よくできたね。頭がいいんだね」と能力をほめ、もう一つのグループには「よくできたね。頑張ったね」と努力をほめました。その後、次に取り組む問題を選ばせると、能力をほめたグループは、新しい問題にチャレンジすることを避け、努力をほめたグループは9割が新しい問題にチャレンジしたそうです。さらにもっと難しい問題を出したところ、能力をほめられたグループは「自分は頭がよくない」と思うようになり、努力をほめられたグループは解けないことを失敗と思わず、「もっと頑張らなくては」と考えたそうです。同じことをしていても、ほめ方によって成長が変わったことになります。

のことから、子どもがテストを持って帰ってきたら、点数をほめるよりも、テストに向き合った努力をほめる方がよいと分かります。また、間違った問題を直そうとする姿勢もほめるチャンスだと思います。是非ともご家庭でもたくさんほめていただければと思います。

学校では行事ごとに努力する子どもたちの素敵な姿がたくさん見られます。ご家庭におかれましても、引き続きご支援のほどよろしくお願ひいたします。